

基礎経済科学研究所

大阪第三学科(金融流通協同組合論ゼミ)からのたより

[第898回ゼミ報告] 2025年3月21日号

「そうか!その手があったか!」「現ナマ」もとい「札束」を配るよりも「商品券」は「生々しく」なく、それを金券ショップで現金化できるし…

3月12日ゼミは、グレーバー『万物の黎明』の第2章「よこしまなる自由」の後半と関連本『アメリカイロコイ民主制』を竹内さんの報告で行いました。インカ帝国の究極的平等、仏社会批判へ。チュルゴーは先住民の批判を翻し、現代の社会進化論の基礎へ、狩猟者から牧畜・農耕を経て都市商業文明へ、先住民による批判の影響に対する応答としてはじまった。ヨーロッパの植民地帝国の支配は現地の進歩を加速するため、と正当化された。ルソーは懸賞論文に優勝：人類の歴史全体を制覇：自由と平等は普遍的価値か。「愚かな未開人の神話」：先史時代の人々は、社会でなにが重要か具体的な考えを持っていた。そのような社会を一様に「平等主義的」と表現しても、「平等」の観念は人類の歴史において比較的遅れて登場した。グレーバーは北米先住民の民主制が啓蒙主義に影響を与えたとしている。[アメリカイロコイ民主制]では、アメリカ建国に先鞭をつけた連合案は、イロコイの「大いなる法」を取り入れ、アメリカ独自の統治機構を編み出した。先住民社会は、ヨーロッパ人と新生アメリカ人に最善を尽くして、自然法による自治を行う生きた実例を提供した。チェロキー社会は、政府を最小限に抑える意図的な努力により個人の自由を増進すると考えた。植民地で育ったインディアンの子供は、インディアン一族の元に帰り、インディアンに囚われ生活した白人は、白人社会に連れ戻されても、隙をみて再び森へと逃げ込み帰ってこない、という。討論では、ルソーの自然状態の問題についてチュルゴーは19世紀の人で、ルソー+ダーウィン。ヨーロッパの文明性を正当化、それを覆す。ヨーロッパの歴史観の問い直し。ボストン茶会事件とイロコイ族との関係。人類の発達の違い、文明の発達の問題、先住民のほうが幸せ!!

会場参加は川口さん・山口さん・井貝さん・高田、オンライン参加は斎藤さん・竹内さん・田中さん・後藤さんの合計8名の参加でした。

* 3月26日(第4週)ゼミは、『資本論第3巻』著者「佐々木隆治さんと語る会」で、佐々木さんはオンライン参加、所内の方々も参加できます。午後5時半から8時の予定です。

・オンライン情報 Zoom: ID: 847 1299 8349 パスコード: 151710

* 第4週ゼミの次のテキスト推薦本を募ります。ご提案ください。

***** ゼミ日程 *****

3月26日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
『資本論第3巻』著者「佐々木隆治さんと語る会」

4月9日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
グレーバー『万物の黎明』3章 氷河期を解凍する 報告：高田

4月23日(水)午後5時半～8時 堺筋本町瓦町・アイクルの部屋
※テキスト未定

その後 5/14, 5/28, 6/11, 6/25, 7/9, 7/23

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso